

北海道高等学校長協会英語部会（兼 英語科・国際科設置校協議会）調査研究まとめ

○調査テーマ：大学入学共通テストの枠組みにける英語認定試験導入に対する対応について

○調査対象：北海道公立私立各高等学校（全日制課程、定時制課程、通信制課程）・中等教育学校

○調査期間：平成30年8月1日（水）～8月22日（水）

○有効回答：240校／320校（75%）

○北海道高等学校長協会英語部会長

北海道ブロック高等学校英語科・国際科設置校協議会長 榎本 敏生（北海道札幌国際情報高等学校校長）

同会 調査研究委員会委員長 清水 公久（北海道清里高等学校校長）

同会 調査研究委員会副委員長 志知 芳彦（北海道鹿追高等学校校長）

同会 調査研究委員会委員 三村 素道（北海道札幌国際情報高等学校副校長）

【大学入学者選抜改革に対する評価】

現行の高等学校学習指導要領では、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能をバランス良く育成することとされており、次期学習指導要領においても、こうした4技能を総合的に扱う科目や英語による発信能力が高まる科目の設定などの取組が求められています。

大学入学者選抜においても、英語4技能を適切に評価する必要があるとあり、共通テストの枠組みにおいて、現に民間業者等により広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験を活用し英語4技能評価を推進することが有効と考えられます。（文科省）

①今回の英語に関わる大学入学者選抜改革は、英語の4技能の育成につながると考えますか

1 そう思う		64
2 どちらかといえば、そう思う		151
3 どちらかといえば、そう思わない		21
4 そう思わない		4

【考察・結果】大学入学者選抜改革に関しては、①の結果より、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて約90%の学校が「英語の4技能の育成」につながるものと考えており、民間検定利用による4技能育成への期待が感じられる。

【共通テストと認定試験併用に対する評価】

平成35年度までは、大学入学共通テストと認定試験の併用とする。（国大協）

②国公立大学における上記の試験併用について、どう考えますか

1 認定試験1本にすべきである		49
2 共通テストとの併用を継続すべきである		129
3 共通テストのみにすべきである		58

【考察・結果】共通テストと認定試験併用に関しては、②の結果より、両者の併用継続が5割を超えた。また、4校に1校が従来の共通テストを評価すると同時に、4校に1校が認定試験導入に対し一定の期待をしていることが窺える。しかしながら、半数以上が併用を希望し、4分の1が共通テストのみと答えていることから、民間検定試験を不安視する傾向がみとれる。

【期間・回数に対する評価】	
センターは、受験者の負担、高等学校教育への影響等を考慮し、高校3年の4月～12月の間の2回までの試験結果を各大学に送付することとする。（文科省）	
③文科省が認定した英語認定試験の表においては、月別実施予定回数の区分が「4月～6月」「7月～9月」「10月～12月」の3期に分けられています。あなたの予想として、生徒が2回受験するとしたら、どの期になるか2つお選びください。	
1 4月～6月	62
2 7月～9月	207
3 10月～12月	209
④4月から12月の間の2回までの受験を考慮して、学校行事等の変更を検討しますか。	
1 何らかの変更を検討する（実際に変更するかどうかは別とする）	51
2 必要かどうかを今後の状況を見て、これから判断する	109
3 検討する予定はない	77
⑤上記質問で1・2を選択した学校にお聞きます。どの分野の変更を検討しますか。（複数回答可）	
1 学校行事の時期の変更、廃止等	72
2 考査時期の変更	46
3 講習時期・回数・科目等の組み直し	100
4 その他の変更	9
⑥学校行事や進路指導上の理由から、学校として受験する認定試験の指定や推奨等を検討しますか。（複数回答可）	
1 学校として、生徒が受験する認定試験の時期を指定する	56
2 学校として、生徒が受験する認定試験の種類を指定する	73
3 学校として、生徒が受験する認定試験の推奨時期を設定する	110
4 学校として、生徒が受験する認定試験の推奨検定を設定する	129
5 何をいつ受験するかは、全て生徒に委ねる	35
6 その他	8
⑦「高校3年の4月～12月の間の2回まで」というスケジュールをどう評価しますか	
1 良い	68
2 悪い	54
3 わからない	117
⑧上記質問で悪いと回答した方に伺います。どのような理由で、どう変えるべきか具体的にお書きください。	
【考察・結果】認定試験の期間・回数に関しては、7月以降を予想する学校が多数を占めている。学校行事に関する変更に関しては、何らかの変更をする学校が21%、今後状況を見ながら判断する学校が46%となっている。また、検討する予定なしの学校も33%となっている。学校行事の時期の変更・廃止については学校祭と回答する学校が多数を占めた。考査時期の変更に関しては、学校事情に応じ幅広い期間での対応を検討していることが窺える。認定試験の指定や推奨等に関しては、学校として生徒が受験する認定試験の推奨時期・推奨検定を設定する学校が過半数を占めている。 また、スケジュールが悪いと回答したなかで一番多かったのは、学年や受験回数を制限すべきでないという意見であった。1・2年次に取得した資格を利用できるようにしてほしいというのが主な理由である。また、生徒の負担感の軽減及び学校生活への影響を考慮し、時期を限定して（例：3年生の9～12月）1回の受験にするという意見も多かった。現在の受験期間は長く、学校生活への影響が大きいと考えているためである。その他、指定期間に受験回数を3回にする、2年次の後期にも1回受験できるようにする、などという意見も目立った。	

【対象認定試験に対する評価】

（対象とする認定試験）国立大学としては、受験生の受験機会の公平性を保証する観点から、センターが認定した全ての資格・検定試験を対象とする。（国大協ガイドライン）

⑨センターが認定した民間試験全てを対象とすることを、どう思いますか。

1 妥当である		52
2 どちらかといえば、妥当である		102
3 どちらかといえば、妥当ではない		69
4 妥当ではない		16

⑩上記質問に対する回答の理由をお書きください。

⑪認定試験を選ぶにあたり、重要視する観点は何か。3つお選びください。

1 受験日程		133
2 受験費用		157
3 受験会場（受験しやすさ）		149
4 試験の難易度（内容）		108
5 各大学の入試要項（認定試験の活用状況）		119
6 対策のしやすさ		45
7 その他		6

⑫現段階で、貴校で受験をする可能性の高い認定試験は次の中のどれですか。（複数回答可）

1 英検CBT		36
2 英検（一日完結型）		158
3 英検（二日型）		96
4 GTEC		128
5 GTEC CBT		34
6 ケンブリッジ英語検定		0
7 TOEFL iBT		9
8 TOEIC		20
9 TEAP		3
10 TEAP CBT		0
11 IELTS		1
12 わからない		24

⑬「高校3年の4月～12月の間の2回まで」の受験について、どのように受験させますか。1つお選びください

1 同じ認定試験を2回受けさせる		91
2 異なる認定試験を2回受けさせる		6
3 いくつかの認定試験を提示し、任意で受けさせる		85
4 わからない		44
5 その他		14

⑭英語認定試験の受験にあたり、現在の懸念は何ですか。（複数回答可）

1 受験費用が高い		174
2 会場に行くまでの旅費等の問題が大きい		89
3 地方都市で開催されない認定試験も想定され、受験機会が不平等である		148
4 実際に4技能の試験（特にスピーキング）が問題なく実施されるかどうか不安である		84
5 共通テストとの併用であるため、生徒の負担が大きい		123
6 10月～12月期に生徒の受験が集中して大丈夫なのか懸念される		87
7 その他		17

【考察・結果】対象認定試験については、⑨の回答より、「妥当」「どちらかといえば妥当」を合わせると、肯定的に捉える学校が70%となった。受験機会の確保というのが主な理由である。一方で約3人に1人（35%）は、数が多すぎると答えている。理由は各試験の難易度の差や公平性の欠如などである。認定試験の選択にあたっては、受験日程・受験会場など様々な観点から総合的に判断していることが窺える。受験の可能性の高い認定試験は英検・GTECを選択する学校が多数を占めた。高3での認定試験の受験に関しては、「同じ認定試験を2回受験させる」と、「いくつかの認定試験を示し、任意で受験させる」と回答した学校がほぼ同数となった。認定試験の受験に対する懸念としては、受験費用等に関する経済的な問題、受験機会の均等に関する問題、認定試験の質の問題、生徒への更なる学習負担の問題等多岐にわたった。

【活用方法に対する評価】		
（認定試験結果の活用）新テストの枠組みにおける認定試験結果の活用については、各大学・学部等の方針に基づき、次の方法のいずれか、または双方を組み合わせて活用することを基本とする。		
①一定水準以上の認定試験の結果を出願資格とする。		
②CEFRによる対照表に基づき、新テストの英語試験の得点に加点する。（国大協ガイドライン）		
⑮上記の方法では、どれが一番適切だと思いますか。		
1 ①のみの活用		69
2 ②のみの活用		53
3 ①と②の双方の活用		117
⑯認定試験結果の活用は大学によって異なる（ことが予想される）が、そのことをどう思いますか。（対象は、国公立の大学と		
1 統一すべきである		92
2 各大学の裁量とすべきである		146
⑰6月に公表された国大協の活用例では、①では「A2」を出願資格とする、②では共通テストの「2割以上」という例をあげま		
⑰-1 出願資格「A2」について		
1 妥当である		110
2 低すぎる		1
3 高すぎる		25
4 わからない		103
⑰-2 加点割合「2割以上」について		
1 妥当である		78
2 低すぎる		29
3 高すぎる		14
4 わからない		118
【考察・結果】認定試験の活用方法については、「一定水準以上の認定試験の結果を出願資格とする」、「CEFRによる対照表に基づき、新テストの英語試験の得点に加点する」という双方の活用を評価するものが、約50%となった。また、大学によって活用方法が異なることについては、「大学の裁量とすべき」が約6割となり、「統一すべき」と答えた4割を上回る結果となり、大学の裁量に一定の理解が示された。出願資格「A2」を妥当とするもの46%、加点割合「2割以上」を妥当とするもの32%と評価する反面、わからないが出願資格「A2」43%、加点割合「2割以上」49%となるなど、判断できかねる状況が窺える。		

【１・２年生の民間検定試験について】		
⑮ １・２年生における民間検定試験において、どのように受験させますか。		
⑮-1 〈１年生〉		
1 全員受験		48
2 進学希望者の全員受験		35
3 任意受験		127
4 受験しない		3
5 わからない		25
⑮-2 〈２年生〉		
1 全員受験		42
2 進学希望者の全員受験		58
3 任意受験		113
4 受験しない		3
5 わからない		23
⑯ １・２年生の進学希望者について、年間あたり民間検定試験をどのくらい受験させる予定ですか。		
1 １回		29
2 ２回		95
3 ３回		27
4 ４回		2
5 ５回以上		5
6 わからない		78
【考察・結果】１・２年生の民間検定試験に関しては、１・２年生ともに任意受験が多数を占めた。また、年間あたりの回数は２回が多数を占めた。一方で、１年生で３５％、２年生で４２％が全員受験または希望者の全員受験と答えており、今後は検定試験の受験が増えていくことも予想される。		

【保護者の経済的負担について】		
⑳ 貴校生徒が認定試験・民間検定試験の受験をするにあたり、３年間での受験費用（受験料・交通費等）にかかる家庭負担は、平均どの程度かかるとお考えですか。		
1 １万円未満		10
2 ２万円未満		30
3 ３万円未満		71
4 ５万円未満		50
5 １０万円未満		24
6 ２０万円未満		7
7 ２０万円以上		2
8 わからない		46
【考察・結果】保護者の経済的負担については、３年間で３万円未満が３０％、５万円未満が２１％、２万円未満が１３％などとなっている。また、２０万円以上を予想する学校もあるなど、家庭負担もけっして軽くはない。		

【英語授業の改善等について】	
②4 技能評価の認定試験の実施により、貴校では英語授業の改善等について着手しますか。	
1 はい	153
2 いいえ	13
3 未定	69
②英語授業の改善等に着手すると回答された方にお聞きます。それは、具体的にどのような改善ですか。（複数回答可）	
1 英語に関わる教育課程の改善（授業時数も含む）	54
2 英語授業そのものの改善	142
3 英語授業に関わる人員配置の変更（人員増、ALT配置等）	26
4 英語講習体制（1～3年）の新たな構築	65
5 民間検定試験の全員受験や希望受験の導入（1～3年）、新たな民間試験の導入	72
6 その他	3
③今現在、すでに着手されている改善策や対応等がありましたらお書きください。	
④英語認定試験導入に関わる問題は何だとお考えですか。（複数回答可）	
1 受験料や受験会場等で、受験生に不平等が生じる恐れがある（経済・地域間格差）	207
2 試験会場の環境や試験官等、試験運営の面での公平性に問題がある	85
3 大学個々の活用方法が異なる	98
4 受験の長期化に伴う学校生活への影響が大きい	97
5 認定試験の実施日・試験内容等、利用の仕方等が現在検討中であることから、情報が少なく対応が非常に困難である	142
6 その他	13
【考察・結果】英語授業の改善等に関しては、認定試験の実施に伴い、授業改善に着手する学校が64%となり、着手しない5%を大幅に上回っており、今回の改革が授業改善を促す結果となっている。具体的には、授業そのものの改善を筆頭に、民間検定試験の全員受験や希望受験の導入、英語講習体制の新たな構築が次に続いた。各校が実施または実施予定の改善策は、S・Wを重視した授業改善、GTEC等の導入、少人数・習熟度授業の導入、評価改善やALT配置等が多かった。中には、オンライン英会話の導入と回答した学校もあった。認定試験導入に関する問題として、受験料や受験会場等、受験生に不平等が生ずる恐れ（経済的・地域間格差）が多数を占めた。また、6割の学校が「情報が少なく対応が非常に困難」と回答しているが、切実な問題である。	

【英語認定試験の理解・周知について】	
⑤貴校では、英語認定試験の内容に対しての研修機会が確保されていますか。	
1 確保している	108
2 特に何もしていない	131
⑥今回の英語認定試験導入の対応に関して、貴校のご要望等をお書きください。	
【考察・結果】認定試験の周知・理解に関しては、特に何もしていないが5%となり、研修等を確保しているの45%を上回った。認定試験にはまだ未確定な部分があり、対応できかねる学校が多いことが窺える。研修機会は各種研修会やセミナーへの出席が多数を占めているが、民間企業の方を呼んでの校内研修も実施されている。主管は、進路指導部や英語科、管理職等が多いが、教務部対応の学校もある。 要望については、当然ながら、推薦やAOも含めて認定試験の全体像を早期に確定・公表してほしいというものが大多数を占めている。他には、受験料の軽減、在宅受験システムの構築、共通試験の継続、時期の延長・変更、受験に至るまでのスケジュールの提示、プレテストの実施、情報交換の機会提供（研究会等）、などの要望がみられた。	
【大学入試英語成績提供システムに対する評価】	
⑦共通IDの有効期限は2年間（予定）とすることを、どう思いますか。	
1 妥当である	94
2 もっと長期の方がよい	70
3 わからない	74
⑧共通IDの申込を高校2年生の11月からすることを、どう思いますか。	
1 妥当である	93
2 もっと早くからよい	65
3 もっと後からがよい	9
4 わからない	72
⑨大学入試英語成績提供システム（共通IDの発行を含む）に関して、疑問や課題、不安材料等がありましたらお書きください。	

【考察・結果】共通IDコードの有効期限については、約４０％が妥当と回答、浪人等様々な状況を想定し、もっと長期を支持する学校も３０％となっている。申込時期についても、同様に約４０％が妥当と回答しているが、もっと早くからを望む声も２７％ある。

不安材料については、情報管理（セキュリティ）とシステムエラーが多数を占めたが、それ以外は多岐にわたっている。主なものとして、進路変更時の対応、社会人入学者における対応、自分の点数の確認方法、推薦入試での利用、成績が欠けている受験生の対応、学校の業務負担、ID発行対象学年の拡大などである。